

# Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 主要経済指標予定 (2007年8月13日～8月17日)

発表日: 2007年8月10日(金)

～GDPは低めの伸びがコンセンサス～

第一生命経済研究所 経済調査部  
担当 日本経済短期チーム  
TEL: 03-5221-4528

(8月13日～8月17日の主なイベント、指標予定)

	指標名	当社予測	予測値	予測レンジ	前回結果
8月13日 (月)	8:50 6月国際収支 経常収支(前年比) (原数値)	+48.3%	—	—	+31.1%
		15,195 億円	16,095 億円	14,500～19,700 億円	21,336 億円
	8:50 4～6月期 GDP 速報 実質 GDP 成長率(前期比) (同年率)	+0.2%	+0.2%	+0.2～+0.4%	+0.8%
		+0.9%	+0.9%	+0.6～+1.8%	+3.3%
		+0.1%	+0.2%	+0.0～+0.4%	+0.5%
	GDP デフレーター(前年比)	▲0.5%	▲0.4%	▲0.7～▲0.1%	▲0.3%
8月14日 (火)	8:50 6月第3次産業活動指数 (前月比) (前年比)	▲0.2%	▲0.2%	▲1.4～+0.5%	▲0.1%
		+1.1%	—	—	+1.3%
	8:50 7月製造業部門別投入・産出物価指数 交易条件(前月差) (前年差)	—	—	—	+0.0%pt ▲2.3%pt
8月15日 (水)	8:30 8月ロイター短観 製造業 DI 非製造業 DI	—	—	—	28 19
		—	—	—	
8月16日 (木)	14:00 6月建築総合統計	—	—	—	
8月17日 (金)	10:30 6月毎月勤労統計・確報 名目賃金(前年比)	—	—	—	▲1.1%
	14:00 6月景気動向指数改訂値 DI先行指数 DI一致指数	—	—	—	80.0% 77.8%
	14:30 7月全国百貨店売上高 (店舗数調整後前年比)	—	—	—	+5.5%

(注) 市場予測はBloombergの調査をベースに作成

## 【注目ポイント】

注目はやはり4-6月期GDP(13日公表)。コンセンサスは前期比年率+0.9%(レンジ+0.6%～+1.8%)。1-3月期から減速し、潜在成長率を下回るとの見方が多い。減速の主因は外需。1-3月期には外需がGDPを前期比で+0.5%pt押し上げていたが、4-6月期には逆にマイナス寄与に転じると予想されている。設備投資は前期から伸びが拡大、個人消費も比較的底堅い動きを続けたと予想されるが、外需の減速を補いきるには至らなかった模様。また、住宅投資や公共投資の押し下げも地味に効いている。在庫と政府消費についてはよく分からない。

ただし、「1-3月期の高成長(前期比年率+3.3%)の反動」との評価が多いと思われ、4-6月期の減速自体はそれほど問題視されない可能性が高そうだ。意見が割れるとすれば、7-9月以降の見方だろう。強気な見方をするエコノミストは輸出や生産の回復可能性が高まっていることを強調し、慎重な見方をするエコノミストは、夏場の個人消費低迷懸念や米国経済の先行き不透明感、金融市場の混乱などを強調することになると予想される。

その他の統計では、7月の百貨店売上高(17日公表)も比較的重要。6月には大幅に増加していたが、これは例年7月から開始するセールが6月に前倒しされたため。7月には反動が出るため、かなり弱めの結果が予想される。6、7月を均してみる必要があるだろう。なお、景気ウォッチャー調査、消費動向調査など、マインド系の指標は7月に悪化している。住民税負担増報道、ガソリン価格上昇、梅雨明けの遅れ、台風、地震など悪材料には事欠かず、7月の個人消費は下振れの可能性が高まっている。

(主任エコノミスト: 新家義貴)

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

【重要指標の当社予測とコメント】

**4-6月期GDP 1次速報・実質GDP成長率** 当社予想：前期比年率+0.9% 中央値：同+0.9%

2007年4-6月期の実質GDP成長率（8月13日公表予定）は前期比+0.2%（同年率+0.9%）と、潜在成長率を下回ると予測する。成長率鈍化の最大の要因は外需である。外需寄与度は前期比▲0.1%ptとなり、1-3月期の同+0.5%ptから大幅に低下する。

ただし、この低成長については1-3月期の高成長の反動の面も大きい。1-3月期と均してみれば潜在成長率並みかそれ以上の成長は確保できており、4-6月期の成長率鈍化を殊更強調する必要はない。また、減速の主因となる輸出についても7-9月期以降には回復が予想されることから、景況感は今後持ち直してくると思われる。4-6月期に生じた景気減速は一時的かつ軽微なものにとどまり、景気の回復基調は崩れないと予想される。

（主任エコノミスト：新家義貴）

**6月国際収支・経常収支（原数値）** 当社予想：1兆5195億円 中央値：1兆6095億円

6月の経常黒字額は前年比+48.3%、原数値で1兆5196億円を予測する。貿易収支については、引き続き米国向け輸出は芳しくないがアジア、EU向けも輸出が堅調なことから大幅増となる見込みである。また、所得収支も黒字額の拡大基調が続くと考えられること、サービス収支も旅行収支を中心に赤字幅が縮小したとみられる。経常収支の黒字額は拡大傾向が持続する公算が大きいと考える。

（副主任エコノミスト：長谷山則昭）

**6月第3次産業活動指数（前月比）** 当社予想：前月比 ▲0.2% 中央値：同 ▲0.2%

6月の第3次産業活動指数は前月比▲0.2%を予想する。小売業は4・5月と好調だった衣料で反動減が見込まれることや、自動車の売り上げ不振もあって前月比マイナスとなると考える。一方で、卸売業や対個人サービスは同プラスとなると見込まれる。

前月比▲0.2%という予想ではあるが、当社の予想通りの伸び率となった場合4-6月期では1-3月期対比で同+0.5%となる。第3次産業活動指数の緩やかな上昇基調が確認できる結果となりそうだ。

（エコノミスト：中本泰輔）

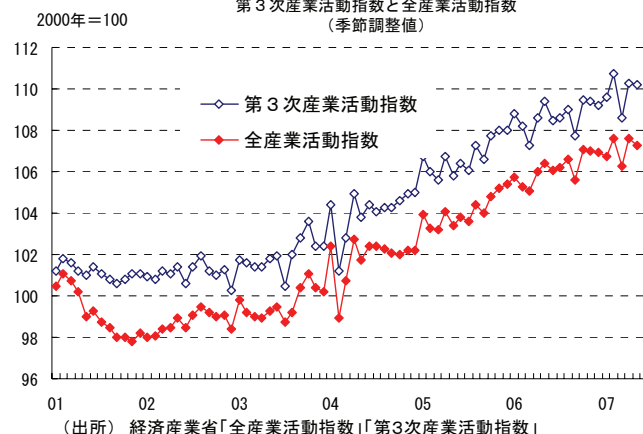
図表1

第一生命経済研究所 2007年4-6月期GDP予測

	実質		名目	
	前期比	前期比年率	前期比	前期比年率
国内総生産(GDP)	0.2	0.9	0.1	0.5
内需寄与度	0.3	1.2	0.3	1.4
外需寄与度	▲0.1	▲0.3	▲0.2	▲0.9
民間最終消費支出	0.4	1.6	0.4	1.6
民間住宅	▲3.2	▲12.2	▲2.6	▲10.0
民間企業設備	1.7	7.0	1.8	7.4
民間在庫品増加(寄与度)	▲0.0	▲0.1	▲0.0	▲0.1
政府最終消費支出	0.2	0.8	0.2	0.8
公的固定資本形成	▲2.2	▲8.5	▲2.0	▲7.8
財貨・サービスの輸出	0.6	2.4	2.7	11.2
財貨・サービスの輸入	1.5	6.1	4.5	19.3
GDPデフレーター(前年比)	▲0.5			

図表2

第3次産業活動指数と全産業活動指数  
(季節調整値)



以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

8月の経済指標公表スケジュール

月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
30 6月鉱工業指数(8:50)	31 6月労働力調査(8:30) 6月一般職業紹介状況(8:30) 6月家計調査(8:30) 6月毎月勤労統計(10:30) 6月住宅着工統計(14:00) 2年利付国債  (米)6月個人所得・消費 (米)6月PCEデフレーター (米)4-6月期雇用コスト指数(速) (米)7月シカゴPMI (米)6月建設支出 (欧)7月消費者物価(速)	8/1 7月自動車販売(14:00) 7月軽自動車販売(14:00) 2007年路線価  (米)7月ISM製造業指数 (米)7月自動車販売 (米)6月中古住宅販売保留 (欧)7月製造業PMI(確定値)	2 7月マネタリーベース(8:50) 10年利付国債  (米)6月製造業受注 (欧)ECB理事会 (英)BOE金融政策決定会合	3 6月家計消費状況調査(14:00)  (米)7月雇用統計 (米)7月ISM非製造業指数
6 6月景気動向指数(14:00)	7 8月月例経済報告 10年物価変動国債  (米)FOMC (米)6月消費者信用残高 (米)4-6月期非農業部門労働生産性(速)	8 6月機械受注(8:50) 7月マネーサプライ(8:50) 7月貸出・資金吸収(8:50) 7月景気ウォッチャー(14:00)	9 5年利付国債	10 7月企業物価(8:50) 6月鉱工業指数・確(13:30) 6月商業販売統計・確(13:30) 7月消費動向調査(14:00)  (米)7月輸入物価 (米)7月財政収支 (伊)4-6月期実質GDP
13 6月国際収支(8:50) 4-6月期GDP1次速報(8:50)  (米)7月小売売上高 (米)6月企業在庫	14 6月第3次産業活動指数(8:50) 7月投入・産出物価指数(8:50)  (米)6月貿易収支 (欧)4-6月期実質GDP (独)4-6月期実質GDP (仏)4-6月期実質GDP	15 8月ロイター短観(8:30)  (米)7月消費者物価 (米)8月NY連銀製造業指数 (米)6月対米証券投資 (米)7月鉱工業生産 (米)8月NAHB住宅指数 ※(インドネシア)4-6月期実質GDP	16 6月建設総合統計(14:00)  (米)7月住宅着工件数 (米)7月建設許可件数 (米)8月フィリピン連銀指数	17 6月毎月勤労統計・確(10:30) 6月景気動向指数改訂(14:00) ※7月全国百貨店売上高(14:30)  (米)8月シカゴ大消費者センチ(速) (香港)4-6月期実質GDP
20 7月コンビニエンスストア統計(16:00)  (米)7月景気先行指標	21 6月全産業活動指数(8:50) 15年変動利付国債  (米)FOMC議事録(8/7) (独)8月ifo景況感指数	22 金融政策決定会合(～23日) ※7月貿易統計(8:50) ※7月チェーンストア販売統計(14:00)	23 8月金融経済月報(15:00) 日銀総裁定例記者会見(15:30)  (台湾)4-6月期実質GDP	24 7月CSP(8:50)  (米)7月耐久財受注 (米)7月新築住宅販売件数 (欧)8月製造業PMI(速報値)
27 (米)7月中古住宅販売件数	28 金融政策決定会合議事要旨(7月11・12日分) 20年利付国債  (米)FOMC議事録(8/7) (独)8月ifo景況感指数	29 (マレーシア)4-6月期実質GDP	30 7月商業販売統計(8:50) 2年利付国債  (米)4-6月期実質GDP(改定値) (米)7月求人広告指数 (米)4-6月期住宅価格指数 (フィリピン)4-6月期実質GDP	31 7月消費者物価・全(8:30) 8月消費者物価・都(8:30) 7月労働力調査(8:30) 7月一般職業紹介状況(8:30) 7月家計調査(8:30) 7月鉱工業指数(8:50) 7月住宅着工統計(14:00)  (米)7月個人所得・消費 (米)7月PCEデフレーター (米)8月シカゴPMI (米)7月製造業受注 (米)8月シカゴ大センチ(確) (欧)8月消費者物価(速) (インド)4-6月期実質GDP

(※)印は期日が未定のもの

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

9月の経済指標公表スケジュール

月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
9/3 4～6月期法人企業統計(8:50) 7月毎月勤労統計(10:30) 8月自動車販売(14:00) 8月軽自動車販売(14:00)  (欧)8月製造業PMI(確定値) (タイ)4-6月期実質GDP	4 8月マネタリーベース(8:50) 7月家計消費状況調査(14:00) 10年利付国債  (米)8月ISM製造業指数 (米)8月自動車販売 (米)7月建設支出	5 (米)ページブック (米)7月中古住宅販売保留	6 (米)4-6月期非農業部門労働生産性(確) (米)8月ISM非製造業指数 (欧)ECB理事会 (英)BOE金融政策決定会合	7 7月景気動向指数(14:00)  (米)8月雇用統計
10 4-6月期GDP2次速報(8:50) 8月マネーサプライ(8:50) 8月貸出・資金吸収(8:50) 8月景気ウォッチャー  (米)7月消費者信用残高	11 7月機械受注(8:50) 5年付国債  (米)7月貿易収支	12 7月国際収支(8:50) 8月企業物価(8:50) 8月消費動向調査(14:00)	13 7月商業販売統計・確(13:30)  (米)8月財政収支	14 8月投入・産出物価指数(8:50) 7月鉱工業指数・確(13:30)  (米)8月輸入物価 (米)8月小売売上高 (米)8月鉱工業生産 (米)9月ミシガン大消費者センチ(速) (米)7月企業在庫
17 (米)9月NY連銀製造業指数	18 9月ロイター短観(8:30) 7月第3次産業活動指数(8:50) 4～6月期資金循環(8:50) 7月毎月勤労統計・確(10:30) 7月建設総合統計(14:00) 金融政策決定会合(～19日) ※9月月例経済報告 ※2007年基準地価  (米)FOMC (米)9月NAHB住宅指数 (米)7月対米証券投資	19 7月景気動向指数改訂(14:00) ※8月全国百貨店売上高(14:30) 9月金融経済月報(15:00) 日銀総裁定例記者会見(15:30)  (米)8月消費者物価 (米)8月住宅着工件数 (米)8月建設許可件数	20 7～9月期法人企業景気予測調査(8:50) 8月コンビニエンスストア統計(16:00) 20年利付国債  (米)8月景気先行指標 (米)9月フィラ連銀指数	21 7月全産業活動指数(8:50) ※8月チェーンストア販売統計(14:00)
24	25 8月CSPI(8:50) 金融政策決定会合議事要旨(8月22・23日分)  (米)8月中古住宅販売件数 (独)9月IFO景況感指数	26 ※8月貿易統計(8:50)  (米)8月耐久財受注	27 2年利付国債  (米)4-6月期実質GDP(確定値) (米)8月新築住宅販売件数 (米)8月求人広告指数	28 8月消費者物価・全(8:30) 9月消費者物価・都(8:30) 8月労働力調査(8:30) 8月一般職業紹介状況(8:30) 8月家計調査(8:30) 8月鉱工業指数(8:50) 8月商業販売統計(8:50) 8月住宅着工統計(14:00)  (米)8月個人所得・消費 (米)8月PCEデフレーター (米)9月シカゴPMI (米)9月ミシガン大センチ(確) (米)8月建設支出 (欧)9月消費者物価(速)

(※)印は期日が未定のもの